

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集 「明日にむかって」編集委員会 発行日 2012年3月30日
住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)

67号

無意味な私の楽しみは映画、映画館で素敵な作品に出会うこと。去年観た200本から親子で観たいベストを選べたら、イギリス映画「ナニーマクフィーと空飛ぶ子ブタ」。ナニーとは乳母のこと。田舎の農場のいたずら盛りの3人兄妹のところに都会育ちの2人の従姉弟が疎開してきて（戦争中でお父さんは留守）、「うち臭い」田舎を馬鹿にする従姉弟たちと3人兄妹は大喧嘩。そこにやって来た魔女のようなマクフィーの魔法で5人はきりぎり舞い。のどかで美しい自然と子どもや動物たちがとにかく可愛い。逃げ出した子ブタが空を飛んだりダンスをしたり、農場を狙う悪い叔父さんから不発弾まで落ちてきて、奇想天外な大冒険に手に汗握るうちに、子どもたちだけでなくお母さんも素敵に変わっていくのが見もの。与えられる試練は五つ。喧嘩しない・分かち合う・助け合う・勇敢・信じる。クリアするたびにマクフィーおばさんも美しくなっていく。どんなことでも愛と勇気があればきっとできる！震災後落ち込んでいた私に勇気をくれた愛おしい映画です。説明よりもまずは一見を！ (S・Y)

陽光保育園

3月、保育園では子どもたちの元気な歌声が響き渡り、今年ももうすぐ17人の年長児が巣立つていきます。思えば、5月の鯉のぼり作りから始まり、7月のお泊り保育、10月の運動会、11月の山登り、12月のお店屋さんごっこと、子どもたちはさまざまな課題に挑み、取り組んできました。その中で意欲と集中力、ねばり強さと自制心を身につけてきました。

今年の年長組は集団遊びが大好き。東日本大震災後、散歩に出られない時期もありましたが、それでも「手つなぎ鬼」や「缶蹴り」「お助け鬼」と夢中で走り回りました。

♪ 巣立ちの春

～卒園に向けて～

陽光保育園と北町保育園

北町保育園

今年の年長児は、歌うことが大好きです。卒園式に向け、新しい歌を2曲入れました。ひとつは「つめくさの歌」です。つめくさの花は、1本の根っこから仲間を増やしていきます。些細なことでケンカになつてしまふ子どもたちですが、つめくさの花のようにみんなとひとつの「仲間」となつて卒園に向かって欲しいという思いから、歌うことにしました。

もうひとつは「伝説の広場の歌」です。この歌も仲間を感じる歌です。去年3月11日に大きな地震がありました。この歌から、他人の気持ちを知り、人と人が力を合わせて生きていくことの大切さを、今まで以上に



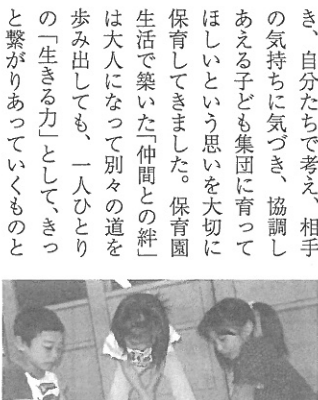
▲歌が大好きな年長児。卒園に向けて取り組んだ「つめくさのうた」「伝説の広場の歌」を大きな声で歌う



▲卒園に向け、今年度は北町保育園でも取り組んだ「荒馬踊り」。自分で作った荒馬を身につけ、元気いっぱい踊る子どもたち

に感じとったと思います。震災後しばらくは、保育園では散歩にも行けず、園庭に出るときは防災頭巾をそばに置き、地震に備える生活をしていました。震災から1年経った今も、お散歩には行っても、どんぐりや小枝を拾って帰ることはできません。どれも忘れることができないことです。こういったことがあつて、今まで生活を共にした子どもたちと私たち担任2人で、「伝説の広場の歌」を掛け合ひで歌おうと決めました。歌詞やうたいまわしに難しいところはありますが、子どもたちが私たちを見つめて歌う顔を見ていると、いろいろな思いが込み上げてきます。

卒園式では「荒馬踊り」に挑戦します。荒馬の衣装を身につけた子どもたちが、太鼓と笛に合わせ、元気に踊ります。



▲卒園式で毎年のように踊りが行われる「荒馬踊り」。今年も年長児がラワン材に馬の頭を描き、錐を使って切り落とし、針を使って衣装を縫い、自分の力で作り上げる

仲間が17人いれば17通りの思いがあり、自己主張があります。時には相手を受け入れられずとっくみあいの喧嘩をすることもありますが、クラスで困ったことが起きたとき、自分たちで考え、相手の気持ちに気づき、協調しあえる子ども集団に育つてほしいという思いを大切に保育してきました。保育園生活で築いた「仲間との絆」は大人になって別々の道を歩み出しても、一人ひとりの「生きる力」として、きつと繋がりがあつていくものと職員一同願っています。



▲秋が深まるころ、年長児は縄とび作り挑戦。3mもある色とりどりの布を割いて、ゆっくり丁寧に三つ編みしていく。できあがった縄とびは世界でたったひとつの自分だけの縄とび。ひとつ跳んでは笑顔がこぼれる

気な掛け声をホールいっぱい響かせて練習しています。小さいクラスの子どもたちは散歩から帰ってくる時、窓ガラスを鼻を押し寄せ、その荒馬踊りをしばし見入っています。こうして小さい子は卒園へ向かう年長児に憧れを抱き、年長児は就学に向けて自信と誇りを育てていきます。

今年の卒園式に飾られる壁画は「花さき山」(作:斎藤隆介、絵:滝平次郎)です。卒園式では、自分らしいすてきな花を咲かせてくれることでしょう。

(陽光保育園主任保育士 宗形博美)



▲新年、お正月の遊びとして楽しむコマ回し。民芸コマを初めて手にした年長児は、来る日も来る日も夢中になって遊ぶ。卒園までに、めざせ百発百中!

保育をめぐる情勢

「子ども・子育て新システム」— 通常国会に法案提出!?

3月2日、政府は少子化社会対策会議を開き「子ども・子育て新システムに関する基本制度」「子ども・子育て新システム法案骨子」などを決定し、関連法案を消費税増税とあわせて、今の通常国会に提出することを確認しました。

「子ども・子育て新システム」は待機児解消を目的に、幼稚園と保育園を一体化して「総合子ども園」を設立させるとしています。しかし、待機児が多いのは3歳未満児(乳幼児)で、一体化施設になるという幼稚園には赤ちゃんを預かる設備もなく、法案の中でも受入れは義務付けられていません。これでは待機児解消にならないのは明らかです。

またこの「基本制度」では、保育の基準など重要な部分は何も明らかにされていません。重要な課題は「制度施行までに検討する」との記述が多く、不安の大きい内容です。

■「新システム」の主な問題点

- (1) 児童福祉法24条(必要な保育を受ける権利を明記)を「改正」して、市町村の保育を実施する義務をなくす。
- (2) 利用者負担は、基本は収入に応じた負担としながらも、実費徴収、上乗せ徴収も認めており、負担増は明らか。
- (3) 幼保一体化としながら、私立幼稚園はそのままでもよい。保育園のみ「新システム」への移行期間を明記していることから、最大の目的は保育制度の解体。
- (4) 株式会社などに剰余金の配当を認める規制緩和を行うなど、企業本位で企業が参入しやすい内容。

■子どもを商売の種にするのはやめて 保育の市場化は、生活保護家庭や、障がいのある

子どもなどが選別、排除されてしまうことが懸念されます。保育園は子どもの命を守り発達を保障する場です。保育を受ける権利が、家庭の経済状況や地域の財政状況によって奪われることのないよう願ってやみません。国や自治体は保育の実施義務を守り、拡充してください。未来の日本を担う子どもたちを商売の種にはいけません。

- 子どもを守るため広げてください
- 署名にご協力ください(保育を産業化する「子ども・子育て新システム」は撤回し、安心して保育・子育てができる制度の実現を求める請願)
- いっしょにご参加ください 5月13日「新システム」NO! 5・13大集会が明治公園で開かれます。ぜひ誘い合せてご参加ください。(陽光保育園園長 徳留人美)

新システムここが問題! 児童福祉法24条改訂で保育が企業まかせに!



新システム導入にあたって消費税増税分から新たに7千億円を振り向けるといいますが、その保証はどこにもありません。仮に公費が増えてもシステム開発や事務経費、株主配当などに使われてしまうので、保育の質の改善にはつながりません。そのうえ、市町村の保育実施責任がなくなるので、公立保育所の廃止・民営化もすすんでしまうでしょう。

板十小あいキッズ 学童クラブ

板十小あいキッズ学童クラブで一番大きな行事「学童緑日」。インフルエンザの大流行により1週間延期、2月16日・17日に無事開催することができました。延期によって子どもたちの気持ちが途切れてしまわないかという指導員の心配をよそに、125名のお客さんを迎え、どの子もお店屋さんの仕事をよく頑張っていました。準備の段階からグループで話し合い、製作などをしていくなかで「みんなでやるんだ」という気持ちをつとつと「みんな」でやれたという達成感を少しでも感じてくれたらと思っています。(学童クラブ指導員 宮澤沙保)

◆陽光会後援会・春の交流会
日時 4月30日(月) 11時~14時
場所 板橋区立平和公園
(上板橋駅北口徒歩5分)とぎわ通り・教育科学館そば) 参加費 大人 1人500円 (子ども、新会員は無料です)

*新会員の方の歓迎会もかねた交流会です。焼き肉、焼そばなどを作ります。皿、箸、コップ、おにぎりなどをお待ちください。

◆陽光会後援会総会
日時 5月25日(金) 19時~21時
場所 陽光保育園ホール

◆陽光保育園 夏のバザー
日時 7月1日(日) 10時~14時
場所 陽光保育園

ごあんない

室内遊び



子どもは遊びの天才です。何もないとどこからでもいろいろな遊びを生みだします。ここでは陽光会の保育のなかで大切にしている活動のなかでもとくに子どもたちの好きな遊びを中心に紹介します。

そして大事なのが「間」です。室内遊びでも「間」の要素が大事です。間は人間の間、空間、時間、仲間の間です。遊びはこの間と認識の発達によって成り立っています。

「ON」から「OFF」へ

1歳児が積み木を積んでいます。保育士がその子に「高く積んだねー。すごいねー」などと言って褒めます。ところが、崩れてしまうとそれも楽しいのです。その後、保育士が積んであげても、そのたびに壊してケラケラ笑います。どうしてそうなるのでしょうか。

1歳児は「1の字」といわれます。これでもかこれでもかと一直線に進んでいきます。積み木も上へ上へと積んでいきます。ところがここで「2の字」の世界が垣間見えてくる時があります。積み木が積んである状態と、崩れている状態がそれです。二つの状態です。紙をびりびり破いたり、粘土で何かを作ったり、変化することが楽しくなるのです。これが発達要求ということでしょう。少し大きくなると、色水遊び(色が変わる)や小麦粉粘土(形態が変わる)なども楽しめます。実はこれが自我の芽生えであり、ごっこ遊びにつながってくるのです。



「自我」とは、違う世界に気づくこと、「ごっこ遊び」とは、違う自分になれることです。

横の変化と縦の変化

人は3次元(時間をいれて4次元)の世界に生きています。横・横(前後・左右・縦(上・下)の世界ですね。

赤ちゃんはハイハイをして横の世界をどんどん広げていきます。歩きはじめると、大人の制止も聞かず、遠くへ遠くへと歩いていってしまいます。縦の世界はどうでしょう。ハイハイが充実してくると段差を上ろうとし、段差の上からのぞきこもうとします。深さ・高さ測っているのです。大きくなれば木登りに夢中になるし、砂場では穴掘りを楽しみます。

このことは、室内遊びでもいえます。横に動く車やボール、引っ張る玩具、ポトン落とし(穴の開いた容器、例えばミルク缶の上部に穴を開け、その穴から小物を落とす)や積み木など、横の変化、縦の変化が大好きです。



ようこうほいくえんの

一時保育

◆こんなときご利用ください

- ・保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など
- ・また保護者の傷病・被災・事故・出産・冠婚葬祭などの緊急時
- ・保護者の子育て不安・リフレックシユなど
- ・育児相談・健康診断等で、お子さんが保育園での保育が必要と認められたとき

◆利用日・利用時間など

- ・月曜日～金曜日の9時～17時(土・日・祝日・年末年始休)
- ・1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」ご利用の方は生後10か月から。
- ・一日1時間～8時間。(ご希望の時間帯で利用できます)
- ◆お申し込み・お問合せ
直接、陽光保育園へ。
(0426)91-1068。受付時間10時～17時
- ・緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
- ・事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます。(親子でおいでください)
- ・利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問い合わせください。

◎寄付のご協力ありがとうございます。

(2011年11月1日～2012年3月5日/順不同・敬称略)

石川衣、鳴坂年正、高久マサミ、長島良子、工藤淳子、永尾登美江、小山陽子、山下澄子、匿名希望者1名

◎財政活動

陽光Tシャツ販売、食品販売

◎2011年度報告～社会福祉法人陽光会・建築財政連絡会より

寄付金(個人)	284,200円
財政活動(食品・Tシャツ販売等)	103,800円
バザー収益(土地購入借入金120万円返済差引き後)	222,560円
計	610,560円

2011年度の寄付金、財政活動などの合計は610,560円になりました。皆様のご協力、ご支援に心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしく願っています。

◎寄付のお願い(1口5000円/何口でもけっこうです)

郵便振替口座 00140-0-260468 名義 陽光保育園建設委員会

*上記口座にお振込いただけるとさいわいです。領収書が必要な方はお書き添えください。寄付金控除の対象になります。



●陽光保育園●

2012年度は、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎ 3956-1068

時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)

対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者

- *参加ご希望の方は実施予定日の3日前までに電話ください。
- *動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
- *お天気により変更する場合があります。
- *0歳のおひなは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2012年度◆年間予定

4月24日(火)	5月29日(火)	6月19日(火)
7月17日(火)	8月21日(火)	9月11日(火)
10月30日(火)	11月13日(火)	12月11日(火)
1月29日(火)	2月19日(火)	3月5日(火)

- *9月:看護師が「健康」について相談を受けます。
- *10月:栄養士が「食」について相談を受けます。

今でも飛行機の音は B29の音に

権田 美佐子



私は今年80歳になります。戦争当時、群馬県太田市に住み、父はクリーニング屋を営んでいました。空襲が激しくなってきたのは1938年か39年ごろ、私は小学校1、2年生だったと思います。家族は、父と母に、私の兄弟が4人。まだ下の妹は生まれていませんでした。

非常時に備えて、子どもは学校の教科書をかばんの中に入れておき、いつでも家に逃げ帰ることができるようにしていました。運動靴は配給で、一度もろうと二度と回ってきませんでした。運動会はみんな裸足で参加していました。食べ物も配給で、米の配給は少なく、わずかなご飯にじゃがいもやさつまいもを混ぜて食べます。ほんの少しを家族みんなで分けるのでいつもひもじく、学校にお弁当を持って行けない子がほとんどでした。

あるとき、母がいつも財布を隠していた柳行李(竹で編んだ大きな籠)の穴に手を入れて財布を取り出し、わずかなお金から小銭を抜き取ってそれで何かの粉で作ったパンのくすを買って兄弟で食べました。母はさつと知っていたと思いますが、とがめたりしませんでした。今母の気持ちや思うと、どんなに辛かったかかと思えます。

近所の食堂の子が、まだ1歳を迎えただけの私の弟の前で、「ほらほら、いいだろう」とパンを見せびらかしたことがありますが、私は泣きたいくらい悔しかったのですが、そのときハイハイしていた弟が、パン

欲しさに立ってしまい、みんなをびっくりさせました。そのくらい赤ん坊もおなかペコペコでした。

家の近くの大きな商店のあたりで空襲があり、大慌てで防空壕に入ろうとすると、30～40人の人でごった返して入れず、隣の防空壕に行くように言われました。そこで別の場所に行ったところ、しばらくして大きな音がしました。「あの音はなんだ!」と出て見ると、さっき追い出された場所が爆撃を受け、全員やられていました。ガタガタと震えがとまりませんでした。

家の近所には富士重工という工場があり、工場を狙うB29がひっきりなしに来ていました。太田市には、新田義貞の墓のある山に防空壕があり、いざというときにはそこに向かいます。ある日私たちのすぐ頭の上をB29が何機もやってきて恐ろしく、家族6人必死で山の防空壕に逃げました。その日は幸いにも天気が悪く雲が多かったおかげで爆弾を落とされずすみましたが、そのときの恐ろしさは忘れられません。小さい自分も爆弾が落ちたら死んでしまうと、いつも恐怖でいっぱいでした。

6年生で終戦を迎えたとき、決して口にはできませんでしたが、本当にホッとした気持ちでした。戦争の恐ろしさは、体験しないとわかりません。今でも飛行機の音を聞くと、B29の音に聞こえて怖いのです。子どもたちには平和な世の中を残したいです。

(板橋区大谷口在住)

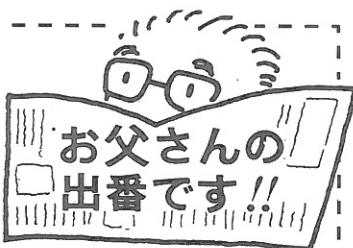
変化する楽しみ

2歳児になると、「ごっこ遊び」がとてもしくなり、それは二つの世界、違う自分がわかってきた証です。男の子は、このことから、怪獣ごっこや戦いごっこが大好きになります。ブロックや、車、汽車などの玩具も好きになります。憧れのヒーローに変身したり、運転手の気分になるなど、違う自分になることが楽しく、気分がよいのです。女の子も、お母さんごっこ、買い物ごっこ、レストランごっこなどが好きになります。戦いはしなくても、テレビのヒーローに憧れ、変身します。

室内遊びは、何かを変化させていく要素のあるものが楽しく、長続きします。ごっこ遊びし

かり、粘土、折り紙、はさみで切るなど、すべて変化する楽しみがあります。

1歳児のクラスで、Aちゃんはとても人見知りの子でした(つまり、違いがわかる子なのです)。その子が誰よりお母さんごっこが上手なのです。そうです、違う人物になりきれます。(陽光保育園 小内康寛)



子どもの時間

私は、采生6歳の父です。采生には小学校4年生のお兄ちゃんがあります。お兄ちゃんが1年生のときから私は、休みの日はお兄ちゃんの野球の練習に付き合っており、采生と過ごす時間が少なく、采生はお母さん任せでした。

去年の10月ごろから采生も、もうすぐ1年生になるので、野球の練習と一緒に連れて行くことにしました。私が采生に「野球する?」と聞くと、「パパとお兄ちゃんと野球したい」と言い、野球に行けると喜んでいました。

内心は「大丈夫かな?」と心配でしたが、とてもしらそうにキャッチボールをしたり、バッティング練習をしたりと張り切っていました(まだ遊び程度ですが)。そんな姿を見ると、連れてきてよかったと思います。采生に「野球楽しい?」と聞くと、「パパとお兄ちゃんがいるから楽しい。ママが作ってくれるお弁当美味しい」と元気に答えてくれました。

野球の練習が終わった後、3人でお風呂に入るのも楽しみのひとつです。その日あったよかったことやだめだったことを言い合ったり、背中を流し合ったり、とても楽しい時間です。采生も、男の仲間入りをしたと、とても誇らしげです。

これから大きくなるにつれて、つらいことや、いろいろな壁が立ちあられてくるでしょう。その一つ一つに、野球を通して一緒に考え、学び、乗り越えて成長していけると思います。子どもたちと関われる時間はとても短いと思うので、今という時間を大切に過ごしたいと思えます。

(陽光保育園5歳児クラス・采生の父 寺田将光)